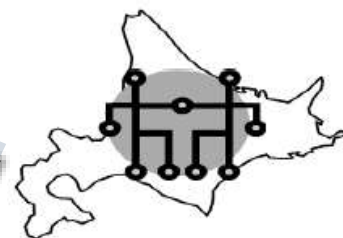


Do!

ネット



北海道生活科・総合的な教育連盟 情報交流誌 令和6年7月 No. 70

「つながり」を広げる連盟に

北海道生活科・総合的な学習教育連盟

委員長 加藤 秀樹

(札幌市立南月寒小学校 校長)



■着任のご挨拶

今年度、新委員長となりました、加藤です。どうぞよろしくお願いいたします。

私は、道連盟で研究部長を6年、事務局次長を2年、事務局長を6年担当しました。道連盟の研究面と運営面において一緒に取り組んだ当時の仲間たちが、現在では各地区の会長・委員長としてご活躍していますので、道連盟委員長として大変心強いです。

実践者としては、平成10年の全国大会で生活科（札幌市立旭小）、平成20年の全国大会で総合（札幌市立資生館小）、平成12年・19年の札幌市大会で総合の授業者を経験しました。私の生活科と総合の実践経験は、連盟会員の皆様のご指導とご支援のおかげと実感し、感謝しています。

私たち連盟は、子どもから学び、子どもを育てる研究団体のネットワーク（人のつながり）です。勤務校が異なる生活科・総合の実践者との「つながり」によって、子ども観・授業観・仕事観が広がります。道連盟の「つながり」のよさを会員の皆様に実感してもらえるように努めていきます。

■「つながり」を広げる1年に

道連盟のネットワーク（人のつながり）のよさは、

- ① 子ども中心（子どもの思いや願い、課題を学びの連続につなげる）
- ② 体験と表現の一体化（価値ある体験を実感のある表現につなげる）
- ③ 自分づくり（これまでの自分をこれからの自分につなげる）



価値ある体験は言葉を豊かにする

を大切にした実践を協働的に学び合うことができるところです。

今年度は、上川地区が主管する全道夏季研修会（7月27日）、旭川地区が主管する全道研究大会（10月11～12日）を通して学び合うことができます。また、2つの全国組織（協議会と学会）との「つながり」もありますので、北海道の実践を全国に発信し、全国の実践から学ぶこともできます。

5年後の令和11年度に旭川で開催予定の学会全国大会・北海道大会を視野に入れ、道連盟各地区の「つながり」、全国との「つながり」を広げる1年になることを期待しています。

■会員の皆様の「心身の健康」を第一に

子どもの成長、教育の質の向上には、実践者自身の「心身の健康」が大切です。教師が疲弊したら、生活科や総合の実践は充実しません。「心身の健康」のためには、各校で取り組んでいる「働き方改革」のように、私たち連盟にも「〇〇改革」（例：組織運営改革、指導案改革など）が必要です。

会員の皆様の「心身の健康」を第一に、私たち連盟の「〇〇改革」がプライベート・学校・連盟のそれぞれにおけるご多幸とご活躍、発展と充実につながっていくことを願っています。

北海道らしい生活・総合とは何か？

～子どもの姿で語る実践を目指して～

研究部 小山 恒（札幌市立川北小学校）

自ら学びの世界を拓げ よりよい自分を創る子ども



昨年度の札幌大会では、「手応えある学び」をキーワードに授業実践を発表しました。また2日間開催により、シンポジウムを開くことで、生活科、総合の理論を深堀することのできた大会となりました。対面による開催を中心としオンラインも駆使したハイブリットな大会となり、この2～3年のコロナ禍であっても、他地区が重ねてきた実践成果を生かし、生き生きと学ぶ子どもの姿を見ることができました。

今年度の全道大会では、課題別分科会の形式を取り、対面での開催であるからこそ、会場の生の声を基本とし、オンラインを利用した双方向の意見交流が行われる方法で開催したいと考えています。

大枠としては、「資質・能力の具体化」と「教師の支援」をテーマに、旭川地区の研究主題や副主題を踏まえ、道の重点である①生活科、総合としての深い学びの検証を資質・能力の具体と、②生活・総合見取りや評価の在り方を教師の支援について討論を深めていきます。各地区から生活科2本、総合的な学習の時間2本の実践をベースに、授業実践を通して得られた成果と課題を主管地区より選出された司会者が運営を進めていきます。対面主体のスタイルが2年目となる本年度は、ぜひ旭川に参集し顔を合わせて討議をしていく予定です。ご協力をお願いいたします。

「学び」を広く捉える

総会資料の研究主題でも提案していますが、我々生活・総合の実践者は、「学び」を広く捉える必要があると、これまでも言い続けてきました。私たちが大事にしてきた「生活・総合の学習観・子ども観」が、学習指導要領に色濃く出ているとも考えられます。子ども主体の学びの在り方を考える際に、子どもが生き生きとした姿を表出できるような「学びの在り方」を考えていきたいと思えます。



子どもにとって価値ある学びとはどのような学びなのか、理想とする学びの実現に向けて我々教師はどのような準備をする必要があるか…。対面による研究大会が実現できた札幌大会から1年が過ぎました。生活・総合の本質を再考し、足場を固め、確実に実践を重ねていく必要があります。

コロナ禍の3年間、人との関わりや体験活動が少なくなり、生活・総合の考え方の大事さに改めて気付かされました。学習指導要領に示される「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の視点からの授業改善の実現に向けて、全道の力を結集し、生活・総合の理念を広く発信していくためにも、本連盟の実践の数々を振り返り、我々の果たしてきた役割やその成果を見つめるとともに、今後も一層、「確かな理論構築」「子ども主体の実践提案」「妥協なき検証」に励みたいと思えます。

学ぶことの意味を捉える

学ぶことへの姿勢

学び方を身に付ける



対象と自分との関わりで学ぶ

学び方やものの考え方を身に付ける

自己の生き方を考える

これからの生活科・総合的な学習の時間

■これからの生活科

体験を振り返る活動や伝え合う活動を通して、気付きの質を高める生活科

+ 気付きの質を高めることの更なる重視

(言葉と体験の充実、気付いたことを基に考える 等)

■これからの総合的な学習の時間

問題の解決や探究活動の過程を通して、物事の本質を探って見極めようとする総合

+ 探究の過程を一層重視する

(探究課題とその解決を通して学ぶ資質・能力の明確化 等)

本連盟では、生活科や総合的な学習の時間で目指す授業の姿を上のように設定してきました。大事にしていきたい内容は大きく変わりませんが、学習指導要領にもある通り、「更なる重視」「より一層重視する」という言葉の意味を考え、理論構築や授業実践につなげていきたいと思っています。また、「目指す子どもの姿」を、資質・能力を面から捉えることはこれまでと同様です。体験や活動を通して、教師は子どものどのような姿に「生活や総合の学びの価値」を見だし、どのような姿から「資質・能力の高まり」を感じ、どのような「資質・能力」を育んでいこうとしているのかなど、教師の「見取り」や「評価」について明らかにしていきたいと思っています。

研究の重点の設定

重点を設けたのは、道連盟の在り方として、目指す方向性を一つにするためです。「授業づくり」の観点からは、資質・能力を高めるための授業の在り方を考える必要があります。生活科であれば「言葉と体験」「気付きの質の高まり」につながることであり、総合的な学習の時間であれば「探究課題」「探究課題の解決を通して育成を目指す資質・能力」に関することになります。また、今年度は、実践から見える北海道の生活・総合の題材の特徴についても整理していきたいと考えています。全道大会で行われる調査官の講演には、この問題提起にこたえていただくとともに、幼児教育から高等学校教育までを視野に入れた「指導観や子ども観の見通し」について語ってほしいと考えています。

これまで本連盟が大事にしてきた「学ぶ子どもの姿」を、これからも見つめ続け、子どもの資質・能力を育むための手立ての具体についても発信し、生活・総合の研究を一層充実させていくようにしていきたいです。今年度も、各地区で、育てたい力を明確にしつつ、学び方や学びの姿を具体的に想定した取り組みに期待しています。

重点① 子どもの資質・能力を高める深い学びの在り方

【資質・能力の面からの検証】

- ・生活科・総合的な学習の時間を軸に！
- ・他の教科・領域等と関連させる効果、可能性！
- ・主体的・対話的な学びをどのように位置付けるか！

- ・学習活動全体を俯瞰
- ・単元配列表を基に
生活科、総合としての
深い学びの検証

重点② 子どもの資質・能力を高める見取りや評価の在り方

【「教師のかかわり」「指導方法」の観点からの検証】

- ・育てたい力を明確に！
- ・学習の過程を一層重視！
- ・学び方や学びの姿を具体的に想定！

- ・子どもの育ちの
到達点と通過点
を想定した、評価計画
の作成

今後、実践を積み重ね、旭川大会の授業や課題別分科会とも連動させながら、精度の高い検証をしていきたいと考えています。今年一年、よろしくお願いいたします。

北海道生活科・総合的な学習教育連盟 全道総会



令和6年5月17日(金)、本連盟の総会が行われ、全道各地区から Zoom によるオンラインでの参加となりました。前熊谷委員長からの挨拶に続き、丹羽事務局長より令和6年度の各部の一年間の取組の様子が報告されました。また、令和6年度の活動計画では、近年の「会員数の減少」や「人手不足」を解消するために、業務負担を軽減する工夫や組織再編についての内容が確認されました。小山研究部長からは、今年度めざす方向性が示され、夏季研修会、全道大会に向けて話し合いを重ね、準備を進めていきたいとの話がありました。最後に、今年度の新役員発表、事務局員委嘱もされ、令和6年度の新体制がスタートしました。



《令和6年度 役員》

【委員長】 加藤 秀樹(札幌市立南月寒小学校 校長)

【副委員長】 渋谷 一典(北海道教育大学教職大学院 教授)

各地区 会長・委員長

【監 査】 川見 明子(札幌市立西岡北小学校 校長)

【理 事】 永根 祥一(札幌市立厚別北小学校 校長)

笹山 雅司(札幌市教育センター 白石)

【事務局長】 丹羽 洋彦(札幌市立緑丘小学校 教頭)

【事務局次長】 渡辺 一生(札幌市立資生館小学校 教頭)

《令和6年度 各地区役員》

旭川	会 長	澤田 匡史	旭川市立愛宕東小学校 校長
	事務局長	植村 博行	旭川市立西御料地小学校 教頭
	研究部長	小原 広士	北海道教育大学附属旭川小学校 教諭
	情報部長	山下 曜	旭川市立末広北小学校 教諭
オホーツク	会長	大西 篤	大空町立東藻琴小学校 校長
	事務局長	加藤 將義	斜里町立斜里小学校 教頭
	研究部長	中尾 隼人	北見市立三輪小学校 教諭
	情報部長	宮内 盛一	北見市立南小学校 教諭
上川	会 長	岸 美香	士別市立温根別小学校 校長
	事務局長	青山 貴	東川町立東川第二小学校 教頭
	事務局次長	林 琢磨	名寄市立名寄南小学校 教諭
	研究部長	瀬尾 祐貴	名寄市立名寄小学校 教諭
	情報広報部長	齋藤 一樹	南富良野町立南富良野小学校 教諭
釧路	会 長	照井 貴幸	釧路市立桜が丘小学校 校長
	事務局長	佐々木 慶典	白糠町立庶路学園 主幹教諭
	研究部長	水上 翔	釧路市立大楽毛小学校 教諭
	情報部長	松田 和也	釧路市立鶴野小学校 教諭
札幌	委員長	大宮 健一	札幌市立幌南小学校 校長
	事務局長	蝦名 悠太	札幌市立太平小学校 教諭
	研究部長	中嶋 孝幸	北海道教育大学附属札幌小学校 教諭
	情報部長	武田 香織	札幌市立平岡小学校 教諭
後志	会 長	山下 秀一	共和町立共和中学校 校長
	事務局長	西岡 健幸	共和町立東陽小学校 校長
	研究部長	土岐 龍大	黒松内町立黒松内小学校 教諭
	情報部長	池田 健二	岩内町立岩内西小学校 教頭
函館	会 長	浦上 修一	函館市立北星小学校 校長
	事務局長	村岡 圭介	函館市立旭岡小学校 教諭
	研究部長	嶋田 陽介	北海道教育大学附属函館小学校 教諭
	研修発信部長	有我 綾	函館市立神山小学校 教諭
留萌	会長	西條 直志	留萌市立緑丘小学校 校長
	副会長	堀 利弘	羽幌町立羽幌小学校 教頭
	事務局長	平野 清也	留萌市立留萌小学校 教諭
	研究部長	西山 洋平	留萌市立緑丘小学校 教諭

今年度も、各地区のつながりを大事にし、チーム北海道でよろしくお願いします！